

|          |          |          |            |
|----------|----------|----------|------------|
| 母性看護学実習Ⅰ | 3年・前期    | 1単位      | 准教授 西川明美 他 |
| 科目カテゴリー  | 看護提供のあり方 | 科目ナンバリング | 33210803   |

## 1. 授業のねらい・概要

周産期にある母子とその家族を対象に、個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進、健康問題や健康上問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養う。

## 2. 学修の到達目標

1. 妊娠期の母子の健康状態を評価し、必要な援助が理解できる。
2. 母子を取り巻く家族関係を把握し、家族関係再構築のための援助について理解できる。
3. 育児支援の社会資源、ソーシャルサポートについて理解できる。
4. 正常な経過を逸脱した妊娠・分娩・産褥期の母子の健康問題について理解できる。
5. 妊婦の保健指導の実践について理解できる。
6. 医療チームの一員としての看護職者の役割を理解し、専門職としての態度を養うことができる。

## 3. 授業の進め方

実習要項参照

## 4. 授業計画

1. 実習期間：平成31年5月～7月の間で1週間の実習を行う。
2. 実習施設：横田マタニティホスピタル、利根中央病院、セントラルレディースクリニック
3. 実習内容：実習要項参照

## 5. 成績評価の方法・基準

3分の2以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、知識確認試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識確認試験は、それぞれ60%以上得点すること。

## 6. テキスト・参考文献

テキスト：森 恵美他（2018）：系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院  
横尾 京子他（2018）：ナースンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術第3版 メディカ出版  
太田 操（2017）：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版  
参考文献：講義で配布した資料、その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

## 7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として、妊娠期の身体の変化と異常およびケア（妊婦健康診査含む）に関する課題をポケットサイズのノートに実習開始前までにまとめ学習しておく。  
実習開始前までに、技術演習を1時間以上復習し実習に臨むこと。

## 8. 受講上の留意事項

先修条件：母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、教員が内容を確認して返却する。  
ただし、実習記録物は返却しない。

## 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。